

講演抄録

内村鑑三の進路を変えた 布良の神田吉右衛門翁

千葉の海と漁業を考える会代表

平本 紀久雄氏

無教会主義を唱えたキリスト教思想家、内村鑑三（1861-1930）は水産伝習所教師だった明治23年（1890）8月、漁業調査のため生徒を引き連れて布良（現・館山市）を訪れている。内村はその著作『予が聖書研究に従事するに至りし由来』で、布良で出会った神田吉右衛門という老人とさまざまな話をしたことが契機となつて「本職として従事した実業をなげうった」と述べている。

内村は札幌農学校を卒業後、開拓使に勤務して水産を担当。渡米・

帰国後の明治22年、水産伝習所の教師となつたが、神田と出会った布良への出張を終えるとすぐに退職する。水産技師から宗教家・思想家の道に進む大きな転機だった。

この時内村は29歳、神田は56歳。神田はいかにと尋ねられ、す



講演する平本氏

「いくらアワビの繁殖を図っても、いくら漁船を改良し、新奇な網道員を工夫しても、彼等漁夫たちを助けてやることはできない」なによりも先に（利那的に生活する）漁師を改良しなければだめだ」と話したという。

私は昨年9月、内村の研究者で同郷・同窓の大山綱夫氏（元恵泉女学園短大校長）に神田吉右衛門とはどんな人物だったのか知らな

ぐに研究・調査を始め

た。

富崎小正門脇に神田翁の顕彰碑がある。大正2年の建立。この碑ができた時には記念の絵はがきもつくられた。

天保5年（1834）生まれで25歳の時に神田家に婿養子に入り、すぐにリーダーとして

頭角を現す。明治6年に磯根アワビ売買の私有を廃し、村の共有に改めさせたというからすごい。この時はアワビの収益から村民に義捐金を募り、学制発布で発足したばかりの小学校に学資援助を行っている。

同15年には自らの発意で潜水器によるアワ

ビ漁業を起し、これを村有とした。白浜や大原など他の地域ではすべて私企業が経営していた。布良では道路や漁港、水道など公共事業費のすべてをアワビ漁の収益でまかな

い、その残った余りを329軒の村人に分配したという。

同18年には相浜から

村が影響を受けるほどの人物だったといえる。

明治29年から33年

の資料によると数百人が参列し、村の児童や隣村の卒業生も集まったという。

わずからうか月でこれだけのことが分かったが、富崎の歴史についてもっと知りたい。布良の人は地元には伝わる話をぜひ収集していただけないか。神田翁の働きを紙芝居や小学校の副読本にできればいい。

市立博物館には明治44年から昭和6年まで、吉右衛門の親類である神田辰太郎が残した膨大な「日誌」が残っている。どなたかがぜひ読み解いてくれれば。

（本稿は館山市の日本キリスト教団南房教会で17日行われた市民講座の内容を要約、再構成したものです）

潜水器アワビ漁を村有に 卓越した漁村のリーダー

乙浜までの漁業組合頭に取になり、マクロ漁の遭難救助積立金制度をつくらせて漁師の相互扶助に道をひらいた。

同26年には富崎村村長に推され、8年間務めた。安房水難救済会も設立した。同29年にはマクロ船の船頭認定制度を設けて証書を交付している。やはり内

同15年には自らの発意で潜水器によるアワ